ジェンダー関連科目紹介

青山学院大学で開講されている科目の中から、ジェンダーを学びの柱としている科目の一部をパネルで紹介します。
パネルPDFは、ジェンダー研究センターのウェブサイト＜教育事業＞に掲載しています。

ジェンダー関連科目紹介展2026　紹介科目一覧

開講学部・学科	科目名	開講キャンパス	学期	※	担当者
文学部英米文学科	イギリス文学特講Ⅰ（2）	青山	前期		麻生 えりか
文学部英米文学科	アメリカ文化特講Ⅰ（1）／アメリカ文化特講（1） アメリカ文化特講Ⅱ（1）／アメリカ文化特講（1） （英語講義）	青山	前期／通年 後期／通年		Mary. A. Nighton
文学部英米文学科	アメリカ文学演習Ⅰ（1）／アメリカ文学演習（1） アメリカ文学演習Ⅱ（1）／アメリカ文学演習（1） （英語講義）	青山	前期／通年 後期／通年	※	Mary. A. Nighton
文学部日本文学科	日本文学特講Ⅱ［8］	青山	後期		武内 佳代
文学部史学科	西洋史特講（5）	青山	前期		畠山 禎
文学部史学科	西洋史特講（6）	青山	後期		畠山 禎
教育人間科学部教育学科	ジェンダーと教育	青山	後期		石黒 万里子
地球社会共生学部	ジェンダーの社会学（英語講義）	相模原	前期	※	菅野 美佐子
コミュニティ人間科学部	女性社会活動論	相模原	後期		小林 瑞乃
コミュニティ人間科学部	キリスト教と女性	相模原	後期		岩上 真歩子
コミュニティ人間科学部	女性と社会運動	相模原	前期		永井 健夫
コミュニティ人間科学部	女性と政治参加	相模原	前期		梅垣 千尋
コミュニティ人間科学部	女性と記録・表現	相模原	後期		辻 吉祥
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学特論E	相模原	前期		梅垣 千尋
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学特論F	相模原	前期		後藤 千織
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学特論G	相模原	前期		小林 瑞乃
青山スタンダード科目	自己理解（個別科目）	相模原	前期		西山 利佳
青山スタンダード科目	現代社会の諸問題（個別科目）（英語講義）	青山	後期		COOP, Stephanie L.
青山スタンダード科目	歴史と人間（総合科目）	相模原	前期		輪島 達郎 小林 瑞乃 山田 美穂子
青山スタンダード科目	歴史と人間（個別科目）	相模原	前期		小林 瑞乃
青山スタンダード科目	ジェンダーとフェミニズムA／フェミニズムA	青山	前期		西山 千恵子
	ジェンダーとフェミニズムB／フェミニズムB	青山	後期		
青山スタンダード科目	いのち・女性・社会	青山	後期		西山 利佳

※他学部に開講されていないので注意してください

ジェンダー関連科目紹介展2026

会期：2026 年4 月1 日（水）～15 日（水）・2026 年9 月14 日（月）～9 月24日（木）
時間：月～土 9:00～18:00
会場：ジェンダー研究センターギャラリー／青山キャンパス・スクーンメーカー記念館（旧女子短期大学図書館）

文学部英米文学科　専門科目

科目名：「イギリス文学特講Ⅰ（2）」

■ 講義概要

【講義テーマ：現代英米小説に描かれる女性たち】

この授業では、英米の女性運動の歴史を参照しながら、約 100 年前の年代記小説でイギリス作家たちが提示した女性像が、その後の小説でいかに変遷していったかを考察します。皆さんは、自分たちが生きる環境は先代の人たちの犠牲や努力や夢の賜物であると考えたことがあるでしょうか。自分の親世代、祖父母世代の女性の「当たり前」は、皆さんの「当たり前」とは大きく異なりますし、当然、皆さんの次世代、次々世代の女性の生き方も大きく変わっていくでしょう。作家たちが見つめてきた女性、家庭、社会の関係を、私たち自身の問題として、少し時空間を広げて考えてみましょう。

■ 達成目標

〇時代背景に照らして女性運動の変遷と課題を理解する。
〇小説の精読を通して、女性の視点から世界を語ることの意義を理解する。
〇女性と世界の関わり、その語り方について、自分たちの問題として考える。
〇自分なりの小説の読み方（批評）を言語化し、他人にわかるように表現する。

担当者：麻生 えりか（あそう えりか）

「フェミニズム」という言葉が不要になる時代を夢見た 100 年前の作家たちに私たちはどんな報告ができるだろうか、と考えながら小説を読んでみたいと思います。私も編者を務めた論文集『終わらないフェミニズム――「働く」女たちの言葉と欲望』（研究社、2016）も併せて読んでみてください。

■ プロフィール

ドイツ・ハンブルク生まれ、大阪と東京育ち。ヴァージニア・ウルフやカズオ・イシグロの小説における戦争表象の分析において、女性と社会のアウトサイダーたちの経験や視点こそが戦争と戦う「武器」になるという私の研究内容は、フェミニズムに大きな影響を受けています。

『終わらないフェミニズム――「働く」女たちの言葉と欲望』（研究社・2016）

科目名：「アメリカ文化特講Ⅰ（1）／アメリカ文化特講（1）（英語講義）」「アメリカ文化特講Ⅱ（1）／アメリカ文化特講（1）（英語講義）」

■ 講義概要 Course description

Title: Rethinking Class in the Black and White Story of U.S. History

This course aims to survey and explore the long history of poverty and disenfranchisement for Black people and also for lower-class whites in American society and culture. We will do this by reading and discussing in the first semester *White Poverty* (2024) by the Reverend Dr. William J. Barber II (with Jonathan Wilson-Hartgrove). Doing so will allow us to confront persistent myths about Blacks, whites, and the nation, as we seek to grasp what class means and looks like in general, and how it intersects with gender, sexuality, and expectations for families as well as individual women and men in society. Finally, we ask how class resentments and class identity continue to shape American life in the present.

In the second semester, we will take up Isabel Wilkerson's provocative study, *Caste: The Origins of Our Discontent* (2020), to complicate the history and meaning of racism in America by considering the global frame of racial hierarchies and the ways in which they overlap with gender, class, occupation, or region. Where possible, we will consider the case of Japan and colonial contexts, as well, and bring in fictional readings or films.

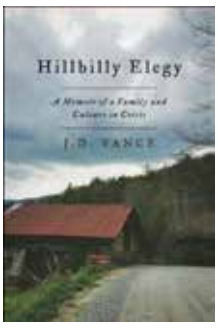
Materials and readings in the class may change depending on student numbers, student interests, availability of materials, and other factors. Whenever possible, student interests will guide choices of readings and final writing projects.

Summer and Winter terms

In each semester, we will pay special attention to celebrated writers of the U.S. in their representations of stereotypes, fears, and prejudices held by, and against, Blacks, women, and the rural and lower classes, in particular. If we have time, we may look at J.D. Vance's autobiography, *Hillbilly Elegy* (2016), and consider how and why the so-called "Trump era" has emerged, and what it might have to do with class in America. "Intersectionality" will inform our approach to the ways in which identities are multiple, contradictory, and complex for both historical groups in society and the individuals living their own lives.

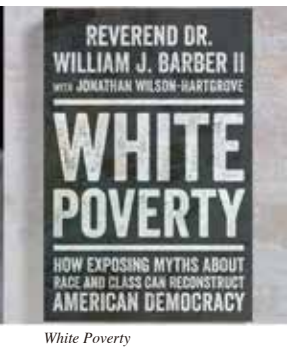
■ 達成目標 Course objectives

(1) To read extensively and intensively (widely and deeply) in modern American culture
(2) To learn about techniques of narrative experimentation in American literature
(3) To compare and contrast universal and both gender-and race-specific approaches to history, art, and culture modeled in critical essays by literature and culture scholars as well as public intellectuals
(4) To present organized talks orally in English on assigned topics
(5) To write argumentative and interpretative essays in English, building from a thesis paragraph by paragraph, based on research with bibliography and notes



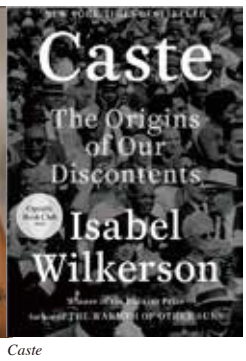
Hillbilly Elegy

Reverend Barber II

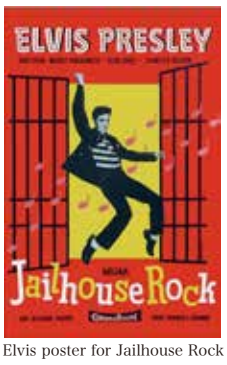


White Poverty

Isabel Wilkerson



Caste



Elvis poster for Jailhouse Rock

Migrant Mother by Dorothea Lange

担当者：Mary A. KNIGHTON（メアリー・A. ナイトン）

外国の文化や言語でジェンダーや社会問題について喋る・読む・書く・考えることに関心を抱き憧れていながら、それを怖くて難しいと思う人は少なくないでしょう。場合によっては、過去に辛い経験をしたことのある人もいるかもしれません。この演習では、学生がより強くより自信を持てるように、異文化共有と意見交換の場を作っていきたいと考えています。女性・性・ジェンダーは、人種・民権・社会階級・文化などに交差する概念でありながら、生きている今のリアリティに切迫した問題とも言えます。英語圏の文化や文学を通してどのようにジェンダー表象を分析できるか、一緒に探りながら挑戦してみませんか。

■ プロフィール

アメリカのバージニア州出身、カリフォルニア州立大学バークレー校でアメリカ近現代文学と日本文学に関連する研究で修士と博士の学位を取得。何十年も日本に滞在し、日本文学、特に女性作家を中心に研究。大学時代以来ジェンダーの自由と女性運動を人権運動から切り離せないと考え、多くの論文や発表で、専門分野の文学を通じてこれらのテーマに取り組んできた。

文学部英米文学科　専門科目

科目名：「アメリカ文学演習Ⅰ（1）／アメリカ文学演習　（1）（英語講義）」「アメリカ文学演習Ⅱ（1）／アメリカ文学演習　（1）（英語講義）」

※他学部・他学科には開講されていないので注意してください

■ 講義概要 Course description

Title: Reading the Harlem Renaissance in Global Context

In The Souls of Black Folk (1903), W.E.B. Du Bois famously said that "the problem of the twentieth century is the problem of the color line." In Knighton Zemi this year, we will take up thinkers and writers such as Du Bois in the context of the modernist African American literary tradition, focusing on the Harlem Renaissance centered in New York City in the 1920s. We will also consider how future developments in the field in more global and Pan-Africanist directions are indebted to the Harlem movement, creating new, comparative literary dialogues between traditions, from the French and Caribbean Negritude movement to African literatures, and extending to today's Afro-Pessimism and Afro-Futurism.

In this first semester, we will read a lot of the shorter essays, poetry, and short stories of the Harlem Renaissance in order to grasp the immense diversity and richness of the writing at this time, leading to what was widely hailed as "the vogue for Harlem." We will pay particular attention to the intersections of race, class, gender, and sexuality in these stories in order to understand what was new, or "modern," at the time and how these dynamics were shifting in vital ways.

Summer Semester

In this semester, depending on student interests and background, we may read one long work as well, such as Du Bois's *Dark Princess: A Romance* (1928), Nella Larsen's *Passing* (1929), or Jessie Redmon Fauset's *Plum Bun: A Novel Without a Moral* (1928).

Winter Semester

In this semester, depending on student interests and background, we may read one long work as well, such as Claude McKay's *Banjo: A Story Without a Plot* (1929) or J.M. Coetzee's *In the Heart of the Country* (1977).

■ 達成目標 Course objectives

The class has three main objectives:
(1) To gain foundational knowledge of techniques of narrative fiction and examine it in its social and historical context;
(2) To improve reading, writing, speaking, and listening skills as a result of intensive study of materials solely in the target language of English;
(3) To foster critical thinking and writing skills through rigorous debate and discussion, comparative analysis of texts, close reading of language use, and short writing tasks.

Zora Neale Hurston

Drawings for Mulattos by Richard Bruce Nugent

Paul Robeson

Langston Hughes

担当者：Mary A. KNIGHTON（メアリー・A. ナイトン）

外国の文化や言語でジェンダーや社会問題について喋る・読む・書く・考えることに関心を抱き憧れていながら、それを怖くて難しいと思う人は少なくないでしょう。場合によっては、過去に辛い経験をしたことのある人もいるかもしれません。この演習では、学生がより強くより自信を持てるように、異文化共有と意見交換の場を作っていきたいと考えています。女性・性・ジェンダーは、人種・民権・社会階級・文化などに交差する概念でありながら、生きている今のリアリティに切迫した問題とも言えます。英語圏の文化や文学を通してどのようにジェンダー表象を分析できるか、一緒に探りながら挑戦してみませんか。

■ プロフィール

アメリカのバージニア州出身、カリフォルニア州立大学バークレー校でアメリカ近現代文学と日本文学に関連する研究で修士と博士の学位を取得。何十年も日本に滞在し、日本文学、特に女性作家を中心に研究。大学時代以来ジェンダーの自由と女性運動を人権運動から切り離せないと考え、多くの論文や発表で、専門分野の文学を通じてこれらのテーマに取り組んできた。

文学部日本文学科　専門科目

科目名：「日本文学特講Ⅱ［８］」

■ 講義概要

三島由紀夫文学と戦後女性誌メディアとの関わりについて学ぶ

■ 達成目標

三島由紀夫文学の新しい側面に関する知識を得つつ、戦後日本の女性誌メディアの状況を理解し、ジェンダー・セクシュアリティ批評の分析方法を修得することを目標とする。

担当者：武内 佳代（たけうち かよ）

戦後日本を代表する男性作家で、現在でも話題になることのある三島由紀夫。このビッグネームである三島といえば、その「高尚」な文学世界は知的な男性読者にこそ相応しいものと見なされてはいないでしょうか？　しかし、じつは三島が作家として活躍していた時代、その人気を強く支えていたのは女性読者たちでした。三島自身もまた、女性読者の存在を強く意識した作家活動を展開していました。とはいえ、そうした活動は「いまだ見えざる」ものとされています。背景には、日本の戦後文壇や文学研究に横たわる男性優位主義の存在があります。
本講義では、そのように「いまだ見えざる」ものとしてある三島の女性誌掲載作品を中心に取り上げます。戦後日本の女性誌に関するメディア状況や、女性誌が啓蒙していた女性のジェンダー・セクシュアリティ規範について紹介しながら、三島文学に新たな光を当ててみたいと思います。ご関心があれば、ぜひ。

■ プロフィール

文学部日本文学科教授。専門は日本近現代文学。とくに三島由紀夫の文学作品や現代小説をフェミニズム・クィア批評で分析することに関心があります。著書に『クィアする現代日本文学―ケア・動物・語り』（青弓社）、共著に『〈少女マンガ〉ワンダーランド』（明治書院）、『中央公論特別編集 彼女たちの三島由紀夫』（中央公論新社）ほか。

文学部史学科　専門科目

科目名：「西洋史特講（5）」

■ 講義概要

【講義テーマ：帝政ロシアにおける女性・ジェンダー】

本講義では、女性・ジェンダーに焦点を当てて、16 世紀から 19 世紀前半までのロシアの歴史を概観します。まず、女性史・ジェンダー史研究の問題関心や方法を説明し、帝政ロシア女性史・ジェンダー史の研究動向を紹介します。つづいて、モスクワ大公国が周辺諸国を征服して台頭してから、その後継国家であるロシア帝国がヨーロッパの大国としての地位を確立するまでの期間について、専制政治体制がどのような「男らしさ」や「女らしさ」を喧伝し男性支配の権力関係を構築しようとしたのか、そのもとで女性にどのような権利が認められたのか、女性はどのような生き方を模索したのか、具体的に論じていきます。なお、この授業の内容は「西洋史特講（6）」と連続しますが、この授業のみの履修もできます。

■ 達成目標

〇帝政ロシアに関する女性史・ジェンダー史研究において、現在、どのような問題に関心が集まっているのか理解する。

〇専制政治体制と女性・ジェンダーとの関係性について理解する。

〇論点を見つけて自分なりに考察し、その結果を分かりやすい文章で表現することができる。

担当者：**畠山 禎**（はたけやま ただし）

この授業では、ジェンダーや社会・家族といった身近なテーマを取り上げて、ロシアの歴史を多面的に考察していきます。ヨーロッパとアジアに跨る多民族国家ロシアの歴史は独特で、大変興味深い研究対象です。ロシアの歴史を学ぶことは、現代ロシアの政治・社会を深く理解するためにも重要です。これまでロシアにあまり関心がなかった人も、気軽に受講してみてください。みなさんから新鮮な意見が聞けることを楽しみにしています。

■ プロフィール

帝政末期ロシアの社会経済、人の移動と家族について研究し、その成果を『近代ロシア家族史研究』（2012 年）にまとめた。現在のテーマは、帝政ロシアの教育とジェンダー。北里大学一般教育部教授

文学部史学科　専門科目

科目名：「西洋史特講（6）」

■ 講義概要

【講義テーマ：近現代ロシア女性史・ジェンダー史】

本講義では前期授業に引き続き、女性・ジェンダーに焦点を当てて、19 世紀後半から 20 世紀初頭までのロシア・ソ連の歴史を概観します。クリミア戦争敗北後、ロシア帝国は農奴解放や地方自治などの一連の改革に着手し、それにともない社会や女性・ジェンダーのあり方も大きく変容していきます。近年の研究では、ロシア革命期に女性が参政権を獲得できた背景として、帝政期の女性が財産権などの諸権利や教育機会を得ていたことが指摘されています。そのような議論をふまえ、女性がどのような生き方を模索したのか、権利の獲得をめざしてどのような活動をしたのか検証していきます。なお、この授業の内容は「西洋史特講（5）」と連続しますが、この授業のみの履修もできます。

■ 達成目標

〇帝政ロシア・ソ連に関する女性史・ジェンダー史研究において、現在、どのような問題に関心が集まっているのか理解する。

〇専制政治体制や社会主義体制と女性・ジェンダーとの関係性について理解する。

〇論点を見つけて自分なりに考察し、その結果を分かりやすい文章で表現することができる。

担当者：**畠山 禎**（はたけやま ただし）

現在のロシアでは女性の就業率が高く、医師や教師といった職業で女性比率が高いです。では、そのような女性の社会進出はなぜ実現したのか、どのような歴史的な背景があったのか。さまざまな国や地域の女性・ジェンダー史を学び、それらを比較したり関係性を検討したりすることで、新しい知見が得られるはずです。

■ プロフィール

帝政末期ロシアの社会経済、人の移動と家族について研究し、その成果を『近代ロシア家族史研究』（2012 年）にまとめた。現在のテーマは、帝政ロシアの教育とジェンダー。北里大学一般教育部教授

教育人間科学部　専門科目

科目名：「ジェンダーと教育」

■ 講義概要

ジェンダーと教育に関するテーマについて、学校内のできごとをはじめ、メディアやスポーツなどの社会教育、家庭教育を含めて多角的に扱います。受講生による発表やディスカッションへの積極的な参加を求めます。

■ 達成目標

〇現代社会におけるジェンダーに関わる諸課題に気づく。
〇ジェンダーに関わる課題について、他者の意見を知る。
〇教育を通してジェンダーにまつわる課題にどのように取り組むか、自ら考え表明する。

担当者：石黒 万里子（いしぐろ まりこ）

現状を変革するのも、維持（再生産）するのも教育です。教育によってジェンダー平等やジェンダー公正の実現が促進される可能性もありますが、ジェンダーステレオタイプを構築し続けているのも教育です。ジェンダーという、私たちの身体的な違いに（あえて）意味を与えて強調するような知識や価値観（スコット）は、家族や学校、社会による教育を通して伝達されるからです。この授業では、教育のそうした様々な側面を念頭に、ジェンダーと教育とがどのようにかかわるのかを、事例を踏まえて検討します。
ジェンダーについて学ぶことは、「性別」についての知識を増やすだけではなく、自分とは感じ方や考え方が異なる「他者」の存在を尊重し、共生する方策について自ら考えるきっかけになります。授業では、ひとつの「正解」にたどり着くことではなく、身近な他者の存在に気づくことができるよう、ディスカッションを通して異なる意見に触れる機会を大切にしています。他の人と「同じ」でなくていいのです。私たちはすでに多様なはずです。

■ プロフィール

東京成徳大学子ども学部教授。早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（教育学）。

【主な著書】
髙橋均編著 2019『想像力を拓く教育社会学』東洋館（分担執筆）
坂越正樹・湯川秀樹・湯川嘉津美・神長美津子編著 2020『教育原理』光生館（分担執筆）
ジェンダー事典編集委員会編 2024『ジェンダー事典』丸善出版（分担執筆）

地球社会共生学部　専門科目

科目名：「ジェンダーの社会学」（英語講義）　※他学部には開講されていないので注意してください

■ 講義概要

Gender is one of the fundamental factors in identity formation and perception of others. Gendered identities and behaviors are not innate characteristics but are constructed according to the norms of different societies and cultures. This course critically explores concepts and theories of gender and sexuality in order to understand how gender norms, roles, and practices are shaped through social structures, institutions, and power relations. In this course, students also challenge many taken-for-granted assumptions about sex and gender, using variety of examples from Japan and other societies.

■ 達成目標

By the end of this course, students should be able to

-explain how gender is constructed and reinforced through the imbrication of socio-cultural factors including race, class, ethnicity, religion, etc.

-link sociological theories and concepts about gender and sexuality to students' own experiences in everyday lives.

担当者：菅野 美佐子（かんの みさこ）

ジェンダーは私たちの社会生活の中のいたるところに無意識のうちに入り込んでいます。ジェンダーを学ぶことは、自分は女か男か、なぜそう思うのか、なぜそのように区分されているのか、そしてその区分にはどのようなパワーやヒエラルキーが潜んでいるのかなどを今一度問い直すことであり、自らが属する社会の構成・構造について深く言及することにもつながります。学生の皆さんには、ジェンダーの学びを通じて、ジェンダーに限らず、人種、民族、階級など社会に内在する諸種の差異や多様性にも気づき、理解し、受容する柔軟なマインドを育んでほしいと思います。

■ プロフィール

地球社会共生学部・助教。専門は文化人類学、インド地域研究。主な著書に、『月経の人類学—女子生徒の「生理」と開発支援』世界思想社、2022年（共著）、『変容するジェンダーの人類学：現代アジアでしなやかに生きる』
明石書店、2026 年（編著）などが

「ジェンダーの社会学」授業風景

コミュニティ人間科学部　専門科目

科目名：「女性社会活動論」

■ 講義概要

これまで女性達は社会に対してどのような思想と行動を示してきたのか、現在に至るまでのその歩みを理解し、今後の展望を探ります。

テキストなど様々な教材の示す具体的事例を通して女性をめぐる現状と課題を理解し、活発なディスカッションによってそれぞれの問題意識を明確にしていきます。様々な角度から考察し、各自の調査対象や研究目標を決定し、議論を重ねて検証を深め、その成果を口頭発表及びレポートにまとめます。

■ 達成目標

1 現在に至るまでの女性達の思想と行動、社会に対する活動などの諸相を理解すること。

2 現代女性をめぐる諸問題について複眼的に考察すること。

3 各自のテーマを発見し、調査・分析した成果を発表すること。

担当者：小林 瑞乃（こばやし みずの）

人生をよりよく豊かに生きるために主体的に学ぼうとする意欲ある姿勢を求めます。この授業では抽象的な概念の講義ではなく具体的な問題に向き合って、現代社会の諸問題を考察します。

女性解放運動、性と生殖、いのち、身体と言葉、女性学、フェミニズムとジェンダーの来歴などを学び、様々にシステム化した我々を取り巻く関係を考え、視野を広げて現代日本の諸相を把握し、答えのない問いに対峙することで自身の見解を打ち立てていく挑戦をして欲しいと願っています。自分自身と真摯に向き合って授業の時間を大切にしてください。

■ プロフィール

専門分野：現代社会論、現代史（社会史、思想史、女性史）、ジェンダー論

現在の研究としては、変動する時代状況の中で自身の精神的基軸を打ち立て、前人未到の境地を切り開いて人生を存分に生き抜いた思想家や文筆家に光を当て、人間と社会を考察した思想と行動を掘り起こし、その生き方と言説の意義を紹介しています。

コミュニティ人間科学部　専門科目

科目名：「キリスト教と女性」

■ 講義概要

私たちのアイデンティティは、所属するコミュニティとの関わりの中で大きな影響を受けながら形成される。本講義では、聖書に登場する女性や、さまざまな時代・分野で活躍してきたクリスチャン女性たちのストーリーを取り上げる。彼女たちが何を大切にし、どのような困難に直面し、その経験を通していかにアイデンティティを形成してきたのか、さらにコミュニティの形成にどのように貢献してきたのかを学ぶ。こうした考察を通して、現代を生きる私たち自身の生き方とアイデンティティ形成について、主体的に問い直すことを目指す。

■ 達成目標

1 聖書に登場する女性やクリスチャン女性たちのストーリーを通して、彼女たちのアイデンティティ形成のプロセスを説明できる。
2 女性たちがコミュニティ形成にどのように貢献してきたかを理解し、コミュニティとアイデンティティの関係について考察できる。
3 現代を生きる自分自身の生き方やアイデンティティ形成について、自らの言葉で表現できる。

担当者：岩上 真歩子（いわがみ まほこ）

この授業では、聖書に登場する女性たちや、さまざまな時代を生きたクリスチャン女性の歩みに丁寧に目を向けます。彼女たちが経験した葛藤や制約、そこでの選択、そして他者との関係の中で形づくられたアイデンティティを読み解いていきます。物語を学ぶことは、過去を知ることにとどまらず、自らの生き方を問い直す営みでもあります。コミュニティの中で私たちはどのように形づくられ、またどのように関わりを築いていくのか。対話を通して、「わたしの物語」を自分の言葉で語れるようになることを期待しています。

■ プロフィール

人のアイデンティティ形成、とりわけコミュニティとの関係の中で形づくられる自己理解のプロセスを、グリーフケアの視点から明らかにすることを目的としている。
喪失体験が自己理解や他者との関係性に及ぼす影響を、理論と実践の両面から検討し、物語と対話を重視したアプローチを中心に据える。とりわけ、キリスト者が経験を意味づけ、自己を再構成し、「神のかたち」へと変えられていく過程を主要な関心領域としている。
青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授・宗教主任。

コミュニティ人間科学部　専門科目

科目名：「女性と社会運動」

■ 講義概要

この科目では、近現代日本における女性の社会運動を振り返ることをとおして、人々が連帯・協働して問題解決に取り組む「運動」の意義について考察する。長らく社会的な行動や発言を制約されてきた女性たちによる運動であればこそ、そこには社会変革の難しさと活路の両方の示唆が含まれていると期待できる。先ず、社会運動の意味や個人と社会の関係について検討したうえで、近代日本建設期（明治〜昭和初期）における先駆的な女性運動家の足跡を振り返る。その後、現代社会の特質である「消費社会」状況に即して、「運動」の可能性と課題について探ってゆく。

■ 達成目標

①「女性の社会運動」の発展過程に関する知識を深める

②女性が社会的に行動することの意義について理解する

担当者：**永井 健夫**（ながい かつお）

「社会の一員」という言い方があります。人間は何らかの社会集団に属しながら生きる社会的な存在です。その集団に属する、つまり「社会の一員」である以上、そこで求められるルールやマナーを守らなければならないし、その社会の存立のためにいろいろな義務を果たすことも求められます。しかし、「社会」の求めることに応ずるだけが「社会の一員」の役割ではなく、「社会」に問題や欠陥があれば声を挙げてそれを指摘し、改める努力を試みることも「一員」としての責任であり、権利でもあります。

何百年も前の話ではなく、ほんの 100 年にも満たない前の日本では、この責任と権利は国民全体が制限されており、特に女性は、選挙権や財産権が認められず、挙げるべき声そのものが奪われていました。それでも、社会の担い手としての責任を果たし権利を行使しようとした女性たちがいたし、その流れを受け継ぐ人たちもいます。

授業で扱えるのは一部にすぎませんが、その女性たちの軌跡を振り返ることをとおして、我々が社会に関わる方法について考えてゆければと思います。

■ プロフィール

コミュニティ人間科学部の教授です。主には、知の在り方の変容可能性について説明する成人学習理論の研究に取り組んでいます。最近は、ちょっとだけ消費者教育行政のお手伝いもしています。「昭和」のド真ん中で育ったオジサンなので、心の奥底には性差別的な細胞が潜んでいるはずです。そんな自分を見つめ直しながら「ジェンダー関連科目」の授業に取り組んでいます。

コミュニティ人間科学部　専門科目

科目名：「女性と政治参加」

■ 講義概要

この科目は、女性の政治参加という問題を、時間的にも空間的にも射程を広げて捉え、その道のりや実態と理論的な課題について認識することを目的とします。まず世界各国における女性の政治参加の状況を比較し、日本の位置づけを確認した上で、特にイギリス近現代史に焦点を当てながら、女性の政治参加のあり方について、現代日本に生きる私たちに新たな気づきを与えるさまざまな歴史的事例を学びます。

■ 達成目標

〇現代日本の「女性と政治参加」をめぐる問題を、国際的および歴史的視点から相対化できるようになる。

〇ジェンダーの視点から、政治参加のあり方の多層性・多元性について理解する。

担当者：梅垣 千尋（うめがき ちひろ）

ここ数年、メディアでよく取り上げられているように、日本はとくに政治の世界で男女格差が著しい国であるといわれています。世界経済フォーラムが公表している「ジェンダーギャップ指数」のランキングでは、政治分野で 148 カ国中 118 位（2025 年 6 月時点）。なぜこれほどまでに低くなるのか、当然疑問が湧いてくるでしょうが、この授業では現代の日本からいったん離れて、イギリスにおける女性の政治参加の歴史を辿ることで、この謎について深く考えるための〈比較の視座〉を示したいと思います。

■ プロフィール

東京生まれ。大学時代に「フェミニズム」の問題に関心をもち、その後、歴史（思想史）の分野でこの問題を考えようと、女性史・ジェンダー史を学ぶ。2021年4月から青山学院大学コミュニティ人間科学部教授。

The Women's Library Reading Room（ロンドン大学 LSE）

コミュニティ人間科学部　専門科目

科目名：「女性と記録・表現」

■ 講義概要

「第二の性」が社会的に強いられるその実存的示徴は、差別、従属、劣位化、すなわち精神的肉体的に行使された暴力の受容に繋累している。別言すれば、その主体性（の発揮）は、さらされる暴力の質と程度に左右されている。重要文献『トラウマと回復』の精読をつうじて、暴力の質のゆくたてとリベレイションへの道筋をたどり、私たちが生きるこの社会構造の解明に資する重要な理論的要件を手に入れる。暴力のエコノミー（配分）が支配性の核心であることとそのコントロール手段の奪還が主体性のキーであることを理論的に理解したい者のための時間とする。翻って説明すれば、ベルクソンやそののちに続いた〈差異〉の現代思想は、生の躍動力 (élan vital) がその発現において、〈暴力のフロー〉に密接にガイドされていたことを逸すべきではなかったということになるだろう。

■ 達成目標

女性ないし女性ジェンダー化された存在の、具体的な困難とその歴史、場面、表現に精通し、問題を通俗化したり個々の心理に矮小化したりせず、広くその構造的、社会的なありかたにおいて、把握できるようにする。さらにはそのあたらしい問題認識において、未来への具体的な展望、脱 - 支配的、暴力統御的な人間文化やコミュニティのあり方を模索できるようにする。

担当者：辻 吉祥（つじ よしひろ）

ひとが「人間」としておこなう営為に、性による２分割は――極めて粗雑なこの枠組みが――いったいなんの役に立つのだろう……こんな分類、いまどき……遅れすぎている、この国。。。ジェンダー関連科目、なんて提示しないといけないこの社会水準自体、みっともなくてひとの行き交う街路にも出歩く気がしない。わたしたちは未知の、あたらしい未来へのエキゾティシズムをうしなってしまったのだ……社会に求められているのは、〈あたらしいニンゲン〉、ただそのひとだけなのに――。〈～らしさ〉を超えて、〈らしくない未知〉を求めるひとに、かつて見たこともない教室のひとときを。

■ プロフィール

ごくふつうのひとです。最近、大阪府育英会の奨学金を返し終えました、ふぅ～。そうです、あの政治的にひどいことが露骨にはじめられているオオサカで育ちました。

現在、青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。

コミュニティ人間科学部　専門科目

科目名：「コミュニティ人間科学特論 E」

■ 講義概要

【講義テーマ：近現代イギリス女性史】

この特論は、イギリスの近現代史を対象として、女性がいかに生活の場や社会のなかでみずからの役割を見い出し、生き方の可能性の幅を広げていったのかを理解することを目標とします。まず、歴史叙述において相対的に女性の存在が明らかにされにくいことを踏まえた上で、ジェンダーという切り口から歴史を捉えることの意義と、現代の女性の生き方を歴史的に広い視野から相対化することの意義を確認します。その上で、フェミニズム思想の成立、近代家族の形成、教育制度の整備、女性の労働、戦争と女性といったトピックスを通して、近現代イギリス女性史にたいする理解を深めます。

■ 達成目標

〇ジェンダーという切り口から近現代イギリスの歴史をとらえ直す意義を理解する。

〇近代から現代にかけて、イギリスの女性たちがどのような生き方を求められ、どのようにして活動の幅を広げていったのかを具体的に理解する。

〇発表や自由なディスカッションを通じて、アカデミックな思考力を鍛えるとともに豊かなコミュニケーションの力を身につける。

担当者：梅垣 千尋（うめがき ちひろ）

私たちは現代の自分の生き方や価値観を「当たり前」のものだと考えがちですが、100 年前、あるいは 200 年前の女性たちがどのように暮らしていたのかを具体的に学んでいくと、いろいろな発見があり、自分の常識が良い意味で崩されて、視野が広がります。同じことを学んでいても、人によって「こんなに大変だったんだ」「意外と楽しそう」「今の自分と結構重なる」など、受け取り方はさまざまかもしれません。そうした違いも含めて、学生同士で自由に意見を交わせるような授業にしたいと思っています。

■ プロフィール

東京生まれ。大学時代に「フェミニズム」の問題に関心をもち、その後、歴史（思想史）の分野でこの問題を考えようと、女性史・ジェンダー史を学ぶ。2021 年 4 月から青山学院大学コミュニティ人間科学部教授。

右：梅垣千尋『女性の権利を擁護する：メアリ・ウルストンクラフトの挑戦』（白澤社・2011 年）

コミュニティ人間科学部　専門科目

科目名：「コミュニティ人間科学特論 F」

■ 講義概要

【近現代アメリカ女性史・ジェンダー史】

セクシュアリティは極めて私的な事柄に見えるが、アメリカ史をとおしてセクシュアリティは社会統制の対象であり続け、多様なアクターが独自の目的で人々の性を管理しようとした。また、性的行動に付与される意味も時代によって変化し、社会浄化運動・性革命・ゲイ解放運動など既存の性規範への大規模な挑戦も起こった。本講義は、セクシュアリティに注目することで、アメリカ社会の特質―宗教国家、入植者植民地主義、人種主義、軍事国家、農業国など―を明らかにし、日本社会との比較を試みる。また、セクシュアリティが近代的個人の確立にどのような役割を果たしたのか、性役割・人種主義・資本主義体制の維持にセクシュアリティがどのように関わってきたのかを考察する。

■ 達成目標

・ジェンダー史やセクシュアリティの歴史が、学問領域として発達した背景を理解する
・性をめぐる考え方が、歴史的状況においてどのように変化してきたのかを理解する
・人種・階級・ジェンダーのヒエラルキーを維持する上で、セクシュアリティの統制がどのような役割を果たしてきたのかを理解する。

担当者：後藤 千織（ごとう ちおり）

アメリカの歴史を事例に、セクシュアリティに関する「当たり前」を、立ち止まって問い直すことが本講義の目的です。例えば、今日では男女の身体的差異を強調する見方に触れることが多いですが、歴史をとおして常にそのような性差認識が支配的だったわけではありません。性別・生殖・関係性・性感染症・性暴力に関係する制度の現状を確認し、アメリカの事例をもとに、どのようなせめぎ合いから現状に至っているのか、課題は何なのかを考えます。

■ プロフィール

青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。

専門はアメリカ社会史、ジェンダー史。19世紀～20世紀初頭のアメリカ合衆国におけるセクシュアリティ統制の特徴を、人種・エスニシティ・ジェンダー・階級を異にする、様々な人々の視点から考える研究をしています。

コミュニティ人間科学部　専門科目

科目名：「コミュニティ人間科学特論 G」

■ 講義概要

〜ライフ・ヒストリー・ジェンダー探求〜

自分自身や他者をみつめ、恋愛や婚活といった身近なテーマをはじめ、男女格差、多様な性と家族、差別と偏見、戦争と平和、命の問題など、様々な観点から現代社会の諸問題とその背景を把握する授業です。多様なライフヒストリーの探究を通して、個を起点として私達を取り巻く社会の抱える課題を考察し、レポートにまとめます。

■ 達成目標

1 身近な生活の中に存在している諸問題を自覚的に捉え直す
2 多様なライフヒストリーを探究する
3 社会の諸状況を理解し、現代を構造的に把握する
4 様々な観点から自分の課題を発見して考察を深め、自身の生き方について大きな見取り図を描く

担当者：**小林 瑞乃**（こばやし みずの）

人が生きるところにライフヒストリーがあり、人類の壮大なライフヒストリーと、一人ひとりの固有な在り方を映し出すライフヒストリーとが交差する〈現在〉にあって、人との繋がりの中で自分の立ち位置をみつめ、現代社会の固有の課題や未来への希望、あるべき社会像を思い描いてみる。また、自分らしく生きるとはどういうことなのか、社会で生きる意味とは何かといった根源的な問いを日常の視点から考察する。そんな学問横断的な作業を通して視野を広げ、思考を鍛えていきます。

大げさに聞こえるかもしれませんが、授業への取り組みは自分自身と対峙すること、授業の時間は生き方を構築する時間として大切にしてください。

■ プロフィール

専門分野：現代社会論、現代史（社会史、思想史、女性史）、ジェンダー論

現在の研究としては、変動する時代状況の中で自身の精神的基軸を打ち立て、前人未到の境地を切り開いて人生を存分に生き抜いた思想家や文筆家に光を当て、人間と社会を考察した思想と行動を掘り起こし、その生き方と言説の意義を紹介しています。

青山スタンダード科目（教養コア科目／歴史理解関連科目）

科目名：「歴史と人間（個別科目）」

■ 講義概要

ライフ × ヒストリー × ジェンダー探求

身近な生活の中に存在している諸問題を自覚的に捉え直すための授業です。男女格差をはじめとする現代日本の現状や人々の多様なありようを広い視野でとらえ、歴史的な経緯を踏まえてジェンダーをめぐる諸状況を理解していきます。様々な観点からの考察によって自分の課題を発見し、自身の生き方の軸を確かにするための知を打ち立てることを目指します。

■ 達成目標

1　身近な生活の中の問題や課題を発見すること

2　多面的な観点から現代社会の諸問題とその歴史的背景を把握すること

3　自分自身にとっての課題を発見し、考察を深めること

担当者：**小林 瑞乃**（こばやし みずの）

この授業では抽象的な概念の講義ではなく具体的な事例に向き合って、現代社会の諸問題を考察します。日本と世界、貧困とジェンダー格差、恋愛と婚活、心と身体、生と性、命といった私たちにとって大切なテーマと向き合い、女性の置かれた現状と歴史を踏まえてジェンダーをめぐる諸状況を理解していきます。

毎回の課題に真摯に向き合い、答えのない問いに対峙することで自身の見解を打ち立てるという挑戦を重ねて、自分の内面に確かな手ごたえを感じていくようにと願っています。

■ プロフィール

専門分野：現代社会論、現代史（社会史、思想史、女性史）、ジェンダー論

現在の研究としては、変動する時代状況の中で自身の精神的基軸を打ち立て、前人未到の境地を切り開いて人生を存分に生き抜いた思想家や文筆家に光を当て、人間と社会を考察した思想と行動を掘り起こし、その生き方と言説の意義を紹介しています。

青山スタンダード科目（教養コア科目／人間理解関連科目）

科目名：「自己理解（個別科目）」

■ 講義概要

子どもの本とジェンダーについて考えます。
子どもの本（絵本や児童文学）の中にひそむジェンダーに焦点を当て問題提起していく部分と、ジェンダー規範からの解放や性の多様性をテーマとした子どもの本を紹介する部分と、主にこの二本の柱で多くの作品を紹介しながら進めていきます。

■ 達成目標

＊子どもの本の批判的な読みにジェンダー視点が必要なことを理解する
＊ジェンダーに焦点を当て、児童文学や絵本を読み込めるようになる
＊古典的な作品やロングセラーの作品をジェンダー視点で再評価できるようになる
＊自身のジェンダー感覚や“性”に対する感覚を問い直せるようになる

担当者：西山 利佳（にしやま りか）

私は「女性学」や「フェミニズム」、「ジェンダー論」などを専門的に学んだことはありません。大学3年の時に児童文学批評のおもしろさに取りつかれて以来40年、「批評」という立場で子どもの本に関わってきました。私が面白がっている児童文学批評は、例えば「純真無垢」といった「子どもらしさ」の思い込みやステレオタイプの再生産に異議を唱え、水を差す仕事です。それは、「女らしさ」や「男らしさ」の呪いを指摘し、抵抗する作業と地続きです。「女子ども」という言葉もある文化状況の中では、なおのこと。無用なジェンダーの刷り込みを次世代に再生産させないためにも、絵本や、児童書をジェンダー観点でいっしょに読み直してみませんか？

■ プロフィール

22016 年度～ 2021 年度、青山学院女子短期大学子ども学科。2022年度～青山学院大学コミュニティ人間科学部。
日本児童文学者協会常任理事、日本ペンクラブ「子どもの本」委員会副委員長、〈子どもの本・九条の会〉運営委員など。趣味は南米。同居動物は猫。

西山利佳『〈共感〉の現場検証』
（くろしお出版・2011）

青山スタンダード科目（教養コア科目／社会理解関連科目）

科目名：「現代社会の諸問題（個別科目）（英語講義）」

■ 講義概要 Course description

Course theme: Gender and law

In this class, we will look at various issues relating to the rights of women and the rights of sexual minorities in Japan and other countries, focusing particularly on the role of law. Legal rules sometimes discriminate directly or indirectly against women and sexual minorities, while in other cases they serve as a force for liberation and transformation. We will examine this dual nature of law by looking at topics such as marriage and the family, gender identity, sexual and domestic violence, and participation in politics and the workforce, studying examples from both Japan and other countries and considering both domestic and international law. Students will learn that the social status of women and sexual minorities is not fixed or unchangeable, but has varied over time and from place to place throughout history, and that social movements in modern times have played a key role in lobbying for reform of oppressive laws and for the introduction of laws that can be used to challenge gender discrimination. The class will provide students with an opportunity to consider their beliefs about gender, and to think about how we can all help create a world in which everyone can achieve their full potential, free from gender discrimination and gender stereotypes.

■ 達成目標 Course objectives

By participating in this course, students will:

a) learn the meaning of basic concepts such as sex (including the concept of intersex), gender (including the concepts of gender identity, gender expression and gender roles), and sexual orientation.

b) gain a basic understanding of the kinds of discrimination that still exist against women and sexual minorities in Japan and other countries.

c) gain a basic understanding of how laws have either reflected and reinforced such

担当者：COOP, Stephanie Louise（クープ, S. L.）

ジェンダー差別に対処し、みんながより生きやすい社会をつくるために、法は基本的な手段の一つになります。私の出身国オーストラリアでは、オーストラリアの連邦法のもとで（ジェンダーに基づくものを含む）差別が禁止され、差別を受けた者は「オーストラリア人権委員会」という国内人権機関に申し立てることができます。委員会は申立人と差別が訴えられている者との間の調停プロセスを無料で提供し、これにより訴訟に至る前にジェンダー差別が救済されるケースが少なくありません。様々な地域の事例を視野に入れながら、皆さんと一緒にジェンダー平等を実現するための法の可能性を検討していければ幸いです。

■ プロフィール

オーストラリアのメルボルンで生まれ、1992 年来日。翻訳者・編集者・記者として働きながら人権 NGO で活動。2003 年、青山学院大学大学院法学研究科博士前期課程入学、2005 年修了。2005年、同博士後期課程入学、2011年修了（博士（法学））。

現在、青山学院大学法学部准教授。国際刑事法をジェンダーの観点から研究している。

オーストラリア人権委員会を訪問（2020 年 2 月）

青山スタンダード科目（教養コア科目／歴史理解関連科目）

科目名：「歴史と人間（総合科目）」

■ 講義概要

この授業では「歴史と人間」についてジェンダーの視点から考察する。
生物学的な性差とは異なる社会的・文化的・心理的に形成された男女の性差を示すジェンダー概念を軸に、わたしたちが性別を認識し文化として構築する方法や社会の中で果たしている機能などの諸問題を考察する。
本講義は専門の異なる複数の教員によりリレー式で行われ、「身体とジェンダー」「社会とジェンダー」「文化とジェンダー」の3つのセクションに分けて、ジェンダーという概念をめぐる歴史と人間の大まかな諸相を把握する。性別システムにまつわる歴史を知り、視野を広げ、専門領域を横断するような視座を獲得するために、資料や文学テクスト、映像等を題材に考察する。

■ 達成目標

ジェンダーとはどのような概念であり、どれほどの射程をもつのかを理解し、ジェンダー学（従来のフェミニズム、女性学、男性学、LGBTスタディーズを包括するもの）の視点を青学生としての「教養と技能」の基盤として理解し身につけながら、「歴史と人間」の状況と課題を複眼的に考察し自己の見解をもつ

担当者：輪島 達郎（わじま たつろう）

この授業では身体の「植民地化」による支配という視点でジェンダーの問題を考えます。植民地支配は欲望や権力を通じて身体のすみずみにまで及びます。もちろん、あなたの身体にも。それを自覚でき、そのカラクリを見抜くことができる修練を積んでいただきたい。

■ プロフィール

専門分野：琉球史・琉球芸能
人はどのように他の人や集団を「植民地化」するのか、それにたいして「植民地化」された人々はどのような抵抗をしてきたのか、ということを考えています。

担当者：小林 瑞乃（こばやし みずの）

ジェンダーを軸に現代社会の諸相を複眼的な観点から考察するとともにあるべき社会像を構想し、同時にまた、生きる意味や自分の在り方を考えるという根源的な問いと向き合って、自分の軸を確かなものにして欲しいと願っています。

■ プロフィール

専門分野：現代社会論、現代史（社会史・思想史・女性史）、ジェンダー論
制約の多かった時代状況の中で自らの生き方を貫き新たな社会への道を切り拓いた人々を研究対象にしています。

担当者：山田 美穂子（やまだ みほこ）

私の担当回では主にイギリスの小説とその映像化作品をご紹介します。100 ～ 200 年前の物語の主人公たちが発した「わたしは誰？」という問いが、あなたのジェンダーにつながっていきます。

■ プロフィール

専門分野：イギリス文学
19世紀末から 20世紀初頭のイギリス文化や社会背景と文学作品との関係を研究

青山スタンダード科目（テーマ別科目／社会理解関連科目）

科目名：「ジェンダーとフェミニズム A ／フェミニズム A」

■ 講義概要

【ジェンダー、フェミニズム入門――世界の流れ・日本の流れ】

フェミニズムとそのキー概念であるジェンダー、性別役割、セクシュアリティ（性現象）とその周辺概念および性の多様性、ジェンダー、フェミニズムの現代のトピックについて講じる。また、とかくイメージだけで語られがちな日本の男女について、諸領域での統計資料を用いて検討し、さらにフェミニズム、ジェンダー平等に関連した国連の活動の流れや、それにともなった日本政府の男女平等に向けての取組み（男女共同参画社会政策）・自治体の動きを概観していく。講義には映像資料を使用することがある。

■ 達成目標

「草食男子」が増え、レディースデーや女性専用車両は幅をきかし…男女平等は行き過ぎ、女性優遇だ、との声がある。その一方で非正規雇用の拡大は女性を中心に進み、日本の男女賃金格差は先進国中でも大きく、共働きの家庭でも家事など無償労働の多くを女性が担う。ジェンダー格差指数についての国際比較では日本の順位は著しく低く、2025 年、148 カ国中 118 位である。雇用される女性の半数近くは最初の妊娠・出産を機に退職している。性暴力のニュースも後を絶たない。日本は男女平等は実現していると思っていたのに、と驚く学生は少なくない。

女性差別の撤廃を目指すフェミニズム（女性解放思想・運動）は２００年以上の歴史をもつが、現代にいたるフェミニズムが盛んになったのは、1960 年代後半からである。今や、性差別の撤廃はグローバルな課題として認識され、制度的な平等のみならず、「男は仕事、女は家庭」といった性別役割、意識、慣習などの変革が求められている。最近ではさらに性の多様性の報道も増え、そもそも性別とは何なのか、との議論も盛んである。女性の能力を社会に生かすことこそ日本再生のカギ、という意見も目立ってきた。

この講義では、現代日本社会の男女の状況を概観し、性差別の解消に向けての取組を学び、男女の平等や公正について理解する。また、ジェンダー概念や性の多様性について検討し、性差の社会的構築性についての洞察力を深める。さらにこれらの学びによって、ジェンダーの公正の視点を

担当者：西山 千恵子（にしやま ちえこ）

この授業の名称は、以前は「フェミニズム A・B」でしたが、2019 年度から「ジェンダー」が付け加わりました。名称変更のさい私からは「フェミニズム」の言葉を残すことを提案しました。「フェミニズム」という言葉はものの見方、思想だけでなくジェンダー平等を実現するための実践や運動も意味するからです。ジェンダーについて考える糸口、課題は日常生活のいたるところに、そしてあなた自身の中にも散りばめられています。学生の皆さんにはジェンダー、フェミニズムについて知る、学ぶだけでなく、その学びを自身の人生をさらに充実したものにするために、そして公正な社

■ プロフィール

千葉大学卒、お茶の水女子大学大学院修士課程修了。高校時代から女性史、フェミニズム関連の書籍に接し、大学院からは女性学、ジェンダー研究の道へ。共訳にアン・ファウスト - スターリング 著『セックス／ジェンダー ―性分化をとらえ直す―』世織書房　2018、共編著に『文科省／高校「妊活」教材の嘘』論創社　2017。

青山スタンダード科目（テーマ別科目／社会理解関連科目）

科目名：「ジェンダーとフェミニズムＢ／フェミニズムＢ」

■ 講義概要

【現代日本のフェミニズムおよびジェンダーをめぐる諸課題】

フェミニズム・ジェンダーをめぐる現代的・具体的な諸問題を取り上げて講じていく。これらの問題や課題について学びながら、適宜、討議の時間を設け理解を深める。講義には映像資料を使用することがある。

■ 達成目標

この講義はフェミニズムAの発展編と位置付ける。19 世紀半ば以降の第一波フェミニズムから1960 年代以降に再び興隆した第二波フェミニズムにいたるまで、フェミニズムは様々な立場、主張を展開してきた。この講義では、現代のフェミニズムが課題としている、女性の政治参加、性と生殖に関する健康と権利、ドメスティック・バイオレンス（親密な関係における暴力）など、現代社会で起きているトピックや、メディアにおける男女の表現、メディア・リテラシー等をとりあげ、身近な生活に潜在するジェンダーの問題に気づき、考察する力を養うことを目標とする。

担当者：西山 千恵子（にしやま ちえこ）

この授業の名称は、以前は「フェミニズム A・B」でしたが、2019 年度から「ジェンダー」が付け加わりました。名称変更のさい私からは「フェミニズム」の言葉を残すことを提案しました。「フェミニズム」という言葉はものの見方、思想だけでなくジェンダー平等を実現するための実践や運動も意味するからです。ジェンダーについて考える糸口、課題は日常生活のいたるところに、そしてあなた自身の中にも散りばめられています。学生の皆さんにはジェンダー、フェミニズムについて知る、学ぶだけでなく、その学びを自身の人生をさらに充実したものにするために、そして公正な社会を実現していくために、生かしていってほしいと思います。

■ プロフィール

千葉大学卒、お茶の水女子大学大学院修士課程修了。高校時代から女性史、フェミニズム関連の書籍に接し、大学院からは女性学、ジェンダー研究の道へ。共訳にアン・ファウスト - スターリング 著『セックス／ジェンダー ―性分化をとらえ直す―』世織書房 2018、共編著に『文科省／高校「妊活」教材の嘘』論創社

青山スタンダード科目（テーマ別科目／社会理解関連科目）

科目名：「いのち・女性・社会」

ジェンダー研究センターが企画、提供する科目

■ 講義概要

さまざまな場所で経験を積んできたゲスト講師の講演を通して、いのちと社会をつなぐジェンダー視点を学ぶ。

■ 達成目標

＊「いのち」を脅かすものを社会的視野の中で考えることができるようになる。
＊近現代日本において、女性がどのように生き、働いてきたか、具体例を通して、より立体的に理解できるようになる。
＊世界の政治的・経済的状況についても把握できるようになる。
＊問題解決のためにできることを考えられるようになる。

■ 授業内容（予定）

＊放射線被曝から子どもを守る市民の活動を知る。 ＊カンボジア内戦のサバイバーの半生に出会う。
＊新聞記者の現場から伝えられる市民の声に出会う。 ＊里親支援の現場からいのちを考える。
＊メキシコのストリートチルドレン、フェミサイドの現場を知る。
＊トルコの女性の生活文化を通して、イスラムの多様性を知る。
＊杉並の女性たちが立ち上げた原水爆禁止運動を学ぶ。 ＊沖縄の基地問題の歴史と現状を学ぶ。
＊丸木位里・丸木俊「原爆の図」を中心に、社会問題と芸術の関係を考える。
＊戦時性暴力について、問題の所在を知り課題解決に必要なことを考える。
＊福島と広島をつなぐ活動に携わる作家のライフヒストリーを通して、いのち・女性・社会を考える。

担当者：**西山 利佳**（にしやま りか）

ドーラ・E・スクーンメーカー宣教師がアメリカから日本へ渡ってきたのは 1874 年。彼女が、青山学院の源流である女子小学校を開いたのは 23 歳になったばかりのころです。彼女の生涯をまとめた棚村恵子先生の講演を聞いたとき、はっとしました。アメリカが政教分離だったことで、宗教が家庭の領域・女性の領域となり、女性たちの自己実現の場としても教会活動が盛んに行われたとのこと。歴史的、文化的に「女性」が追いやられた先は「いのち」に近しい場所だったかも知れません。「女性」の観点で「いのち」と「社会」を考え、つなぎ、「わたし」のもやもやを「わたしたち」の問題として言語化する……そんな野望を持つ科目です。

■ プロフィール

2016年度～2021年度、青山学院女子短期大学子ども学科。2022 年度～青山学院大学コミュニティ人間科学部。
日本児童文学者協会常任理事、日本ペンクラブ「子どもの本」委員会副委員長、〈子どもの本・九条の会〉運営委員など。趣味は南米。同居動物は猫。

『わたしたちのアジア・太平洋戦争』（童心社・2004）（共編著）